

ワケ カタチには理由がある(18)

～ピラタス PC-6 ターボポーター



[↑石川県立航空プラザ
の展示機体(撮影筆者)]

本機は、スイスのピラタス社が製造した輸送機です。ピラタス社は、日本海軍が零戦の20ミリ機銃としてライセンス生産したエンリコ機銃のエンリコ社が1939年に設立した会社で、練習機や軽輸送機を開発していました。このPC-6は、主翼、垂直尾翼、水平尾翼のそれぞれがなんの装飾のない矩形にデザインされ無骨に感じる機体ですが、そこが逆にチャームポイントになっています。このシンプルな設計思想は、結果として「空のジープ」と喩えられるほどタフで信頼性がおける機体を作り上げました。日本の文部省(当時)が南極観測隊の使用機としてこの機体を選択したのは、その頑丈さにあったと思われます。同機は1979年～2004年まで南極観測隊で使用された後、一機が小松空港に隣接する石川県立航空プラザに展示されています。世界中で使用されるターボポーターですが、地味な塗装が多いなか、赤・白・黒で塗装されたこの機体は、世界で一番美しいターボポーターだと思います。この機体が純白の南極の大地の上を飛行する姿は、とても映えただろうと想像します。

【模型について】

オーストラリアのハイプレーンズ(High Planes)製1/72の簡易インジェクションキットと英国のエアクラフトインミニチュア(A in M)製1/72のパキュームキットをニコイチしています(後者を製作中に、より作りやすい前者がリリースされたため)。ランディングギアに取り付けられるスキー装置や燃料タンクは自作です。情報が少なかったのですが、制作までに小松空港を利用する機会が2度ほどあって、実機を取材できたので何とか完成させることができました。(中川裕幸 2021年4月)